

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第一中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 2年国語、数学、社会、理科では、全国、出雲市の平均をいずれも上回った。
- 3年国語は全国、県の平均を上回った。「話す・聞く」能力では平均を下回った。3年英語は全ての領域で全国、県、市の平均を上回った。
- 3年数学は市、県の平均を上回ったが、全国平均を下回った。「数と式」「図形」の領域では全国、市の平均を上回ったが、「関数」がやや低かった。
- 2年英語は全国、市の平均を下回った。内容理解のリスニングは平均を上回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○市平均、全国平均共に上回っている。特に文章の内容を読み取る力は、説明文も文学作品も優れている。また、話す・聞く力や漢字の読みなどの力も高い。 ●書く力、特に自分の考えを明確にして書く問題の正答率が低い。	□授業で毎時間行っている「漢字テスト」や、自学ノートの活用といった活動を通して、基礎基本の力の定着を図る。 □教科書の「書く」単元の活用や、作文の課題に取り組むことで、自分の考えを文章で表現する力をつける。
	3年	○多くの分野で県平均、全国平均をわずかに上回っている。情報を整理して内容を捉えるという読解の基本的な力や言語に関わる知識についての基礎的事項は定着している。 ●自分の考えを明確にして表現することに課題がある。	□基本的な力の定着を大切にした学習を継続する。 □話し合い活動など表現する活動を工夫し、適切に表現する力の向上につなげる。
数学	2年	○基本的な内容の定着はしている。 ●関数や図形の分野で正答率の低いところがある。	□授業でめあてを掲示し、本時に学ぶ内容を意識させる。 □基本的な計算がしっかりできるよう、反復練習を授業で取り入れる。 □授業の最後に本時の授業のまとめ・振り返りシートを書かせ、内容の定着につなげる。
	3年	○多くの分野で市平均、県平均を上回っている。基本的な内容は定着しており、特に数と式・図形領域では正答率が高い。 ●関数領域の正答率がやや低い。	□プリントや宿題等で繰り返し練習する。 □既習事項を確認しながら授業を進める。特に関数の学習では、比例・反比例、一次関数と比較していくことで理解を深める。
社会	2年	○多くの分野で市平均、県平均を上回っている。特に、世界各地の人々の生活と環境・古代までの日本の問題の正答率が高い。 ○観点別に見ると、知識・理解の能力が高い。 ●西アジアや中央アジアの産業について、資料を読み取って把握する問題の正答率がやや低い。	□学習課題に応じて世界地図や写真や動画等による視覚的資料を積極的に用いる。 □表やグラフを読み取ったり、説明したりする活動を設定する。
理科	2年	○基礎問題、活用問題共に全国・市の平均を上回っている。物化生地の4分野において、いずれも基礎・基本的内容が定着している。 ○実験・観察の技能を問う問題において、特に正答率が高い。 ●物理分野で、実験結果をもとにして考察をしたり説明をしたりする部分を苦手としている。また、公式を用いた計算問題を苦手とする生徒もいる。	□引き続き、観察実験を行う。一人ひとりが考察する時間を十分に確保し、意見交換や議論などを通して思考力を伸ばす。 □計算問題は小プリントや単元プリントを活用して反復練習を行う。
英語	2年	○内容理解のリスニングについては、全国・市の平均を上回っている。 ●一部のリスニング以外については、全国・市の平均を下回っているものが多い。特に3文以上の英作文については、他の部分に比べて正答率が低い。	□授業で毎時間行っているリスニングのトレーニングを続け、さらに能力を高めていく。 □表現する力(話す・書く)をのばしていくための言語活動を工夫する。
	3年	○多くの分野で県・全国の平均を上回っている。 ○与えられた情報に基づいて英文を書くことや、適語補充に関する能力が高い。 ●自分の考えを英作文する力は、他の部分に比べて正答率が低い。 ●会話が成り立つように英文を書いたり、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある英文を書く問題では無解答率が高い。	□与えられたテーマについて自分の考えを書いたりする機会を設ける。 □表現する力(話す・書く)をさらに伸ばしていくための言語活動を工夫し、強化する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○【3年】課題の解決に向けて、自分で考え取り組んでいた生徒の割合は全国や県の平均とほぼ同じである。 ●【2年】数学(59.9%)、英語(55.7%)以外の教科で分からないことを質問する生徒が少ない。(国46.1%、社46.1%、理49.7%)	□授業の中で話し合い活動や学び合いの場を取り入れ、自分の考えや意見を発表する場を設ける。 □授業で質問しやすい学習環境づくりを心がける。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○【2年】宿題をきちんとしている生徒が多い。(全ての教科で80%以上) ○【3年】県平均よりは学習時間が多いが、全国よりは低い。(3時間以上2.9%、県2.6%、全国9.9% 2~3時間21.5%、県14.1%、全国25.6%) ●【2年】予習をしている生徒は全体的に少ない。(国21.6%、社44.3%、数49.7%、理44.3%)	□定期テストや習熟度テスト前は、学校で学習計画を立て、それに沿って家庭学習ができるよう、声かけをする。 □学活・総合的な学習の時間などで進路学習を行い、家庭学習への意欲を高められるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○【2年】学校での出来事を家の人に話している生徒が全国に比べて多い。(81.4%、全国72.9%) ●【3年】地域や社会への関心が低い傾向にある。地域の行事への参加に当てはまる回答した生徒の割合(15.7%、県24.3%、全国21.0%) ●【2年】地域の行事に参加している生徒が少ない。(37.7%)	□総合的な学習の時間等で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を増やす。 □生徒に地域の行事を紹介したり、住んでいる地域の行事にできるだけ参加するよう呼びかけをしたりする。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第二中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国学力調査:中3対象】

- 国語の平均正答率は「県・全国」平均値を上回り、おおむね良好な状況であった。
- 数学と英語の平均正答率は「全国」平均値を下回り、弱さの伺える状況であった。特に、自分の考えを表現する(記述する)ことに課題がある。

【市学力調査:中2対象】

- 全教科の平均正答率は「県・全国」平均値とほぼ同じでおおむね良好な習得状況であった。中でも理科は4領域の学習内容全てにおいて「全国」平均値を超えた。
- 数学では「活用」問題における「表現力」において、英語では「言語や文化についての知識・理解」領域において、弱さが伺えた。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○「話す・聞く」領域の平均正答率は全国平均値を上回り良い状況となった。 ○「展開内容の整理、表現の特徴を捉える」問題は全国平均値を上回った。 ●「伝統的な言語文化と国語の特質」問題に弱さが伺え、文法等に係る正確な理解が望まれる。	□「小テスト」「月例漢字テスト」を行い基礎的・基本的事項の定着を図る。 □授業において、次の学習活動を多く設定する。 ・「語句」を国語辞書で調べ、「言葉」の意味理解を助け深める ・読み取った内容、自分の考え、短作文等、「文章で書く」活動
	3年	○全区分の平均正答率は県・全国平均値を上回り、概ね良好な状況となった。 ●「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」ことに弱さが伺えた。 ●「記述」問題に対する無解答率が高く、課題と言える。	□授業において、「話し合い」の場を多く設定する。 □「感想や創作作文」等、「短作文」を計画的かつ継続的に設定し、生徒の「書く」ことへの抵抗感を軽減していく。
数学	2年	○「数と式」と「図形」領域、および「基礎」区分問題の平均正答率は全国平均値を上回り、良好な状況となった。 ●「関数」と「資料の活用」領域、および「活用」区分の問題に弱さが伺えた。 ●「発展」区分の問題において無解答率が高く、課題と言える。	□「単元テスト」を計画的に実施する。 □「関数」「資料の活用」領域では「数学的活動」を多く設定し、数学的表現の機会を増やす。また小テスト等、「自分なりの言葉で表現する」問題を設定する。 □「発展」問題の時間を設定し、「協調学習の考えを生かした授業」を行う。
	3年	○「図形」領域の平均正答率は全国平均値を少し上回りよい状況となった。 ●「数と式」、「関数」、「資料の活用」領域では弱さが伺えた。 ●「記述」問題においては無解答率が高く、課題と言える。	□基礎・基本的事項の定着を図るため毎時間小テストを実施する。 □数学的表現力の向上を図る。 ・授業中、グループ学習や学び合い活動を設定し数学的表現を行う機会を増やす。 ・ワークシートに自分の考えの記入欄を設定し、自分なりの言葉で表現する場面を設定する。
社会	2年	○「雨温図」問題の平均正答率は高く、「記述」問題の無解答率も少なくなった。 ●「歴史」領域において「時代の流れを大観する」ことに弱さが伺え、「基礎」よりも「活用」問題に対して弱さが伺えた。	□「作図する」「文章にまとめる」等、十分な時間を設定するとともに個別指導を継続する。 □「学習内容に関連するニュースや新聞」も使用し、「社会」は身近に感じるよう教材を工夫する。
理科	2年	○学習内容「エネルギー、粒子、生命、地球」の4領域、また評価の4観点「知識・理解、思考・表現、実験技能、関心・意欲」、全ての平均正答率が全国平均値を上回り、良好な状況となった。 ○「濃度計算やグラフ化」、「粒子モデル」の正答率が非常に高い。 ●「力と圧力」問題では「力の大きさを考える」、「地層」問題では「地殻変動の様子を推測する」など、弱さが伺えた。	□「生徒が理科の見方・考え方を働かせながら観察や実験を行うよう学習課題の焦点化を図る。 □協調学習の考え方を生かし、より深い学びとなるよう促す。 □科学映像等を積極的に視聴させ生活との関連づけを図る。 □学習課題の追究が自学へと繋がるよう努める。
英語	2年	○「読み取る」問題では、「長文」「対話文」どちらも良好な状況で、「聞き取る」問題も同様に良好な状況となった。 ●「書くこと」領域の平均正答率は全国平均値を下回り、弱さが伺えた。 ●「知識・理解」領域の「語彙」に関する問題の平均正答率が全国平均値を下回り、弱さが伺えた。	□授業では「英文を書く活動」を多く設定し、生徒が積極的に取り組めるようALTとも協力して支援する。 □「単語テストや文型テスト」を定期的に設定し、基礎的・基本的事項の定着を図る。
	3年	○「話す」「読む」領域の平均正答率は全国平均値を大きく上回り、良好な状況となった。 ○「まとまりのある文章を聞いたり読んだりして話の概要を理解する」問題の平均正答率は全国平均値を大きく上回り、良好な状況となった。 ●与えられたテーマについて「まとまりのある文章を書く」ことに弱さが伺えた。	□授業では「英語で書いて表現する」場をより多く設定するとともに、自学でも課していく。 □「小テスト」を継続し、基礎的・基本的事項の定着を図る。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「国語の勉強が好き」と回答した生徒の割合が「県・全国」平均値より高い。 ○「読書時間」「図書館利用頻度」が「県・全国」平均値より高く、よい習慣化傾向となった。 ○「授業は楽しいか」に対して、「国語」「英語」において肯定的回答率が高い。 ●「授業でのICT利用頻度」が「県・全国」平均値を下回り、今後の課題と言える。	□実践研究の推進 □教科部による授業公開を計画的に設定 □学習指導研修の推進 ・夏期休業時(2回)、冬期(1回)の設定 □ICT機器の整備と利活用の推進 ・事務部との協働により整備を進める
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「計画的に勉強」と回答した生徒割合は「県・全国」平均値を上回り、よい傾向となってきた。 ○「朝食を毎日食べる」、「同時刻に寝る・起きる」生徒割合は「全国」平均値を上回り、よい傾向となっている。 ●「学習時間」は「県」平均値を上回るが「全国」平均値を下回っており、取組の継続化が望まれる。	□「学習の習慣化」を目的とした「自主学習」の奨励と学年部による推進を図る。(例:1日1ページの取組)また、真正な意味の「自主学習」ができるよう、「学習の振り返り」が繋がっていくよう検討する。 □「学びと仕事と社会」の繋がりが意識できるようキャリア教育プログラムを継続実践する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「家族と学校での出来事について話す」と回答した生徒割合は「県・全国」平均値より高い。家庭でのコミュニケーションの大切さ等、啓発活動の継続化が望まれる。 ●「地域行事への参加」状況は「県・全国」平均値を下回り、課題と言える。	□地域のボランティア事業に参加できる体制を整えていく。 ・ボランティア掲示板の設定 ・ボランティアウィークに併せ、学校全体の取組の設定

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立第三中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>○3年生はすべての教科が全国の平均正答率と同程度で、市や県の平均正答率をほぼ上回っている。</p> <p>○授業中ノートをとりながら先生の話をしっかり聞き、授業内容を理解していると答えた生徒が多く、まじめに授業に取り組む様子が見られる。</p> <p>●2年生では、理科を除く他の教科で全国の平均正答率とほぼ同程度またはやや下回っている。特に英語ではすべての項目で、全国および出雲市の平均正答率を下回っている。</p> <p>●記述する問題での無解答率が高く、数学では全国に比べて全体的に無解答率が高くなっている。</p> <p>●「解答時間が足りなかった」と答えている生徒の割合が高く、問題の意味を正しく読み取ったり、時間配分を考えて問題を解いたりすることに課題があると考えられる。</p>
---

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。学習活動では、「宿題」「予習」等の家庭学習に関する割合は高い。</p> <p>●文法・語句に関する知識の正答率がやや低い。個別の問題を見ると、文学作品で人物の心情を読み取る力もやや弱い。</p> <p>●「分からない言葉があれば辞書を引く」割合が、全国平均より低い。</p>	<p>□文法事項の学習をする際は、1年時の復習を行い、既習事項を想起してから学習するようにする。</p> <p>□図書館の利用率は比較的高いので、図書館を使った指導を取り入れ、辞書や新聞に親しませるとともに、読書量を増やし、語彙力を高めていきたい。</p>
	3年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。</p> <p>●読む能力の正答率が低い。問題別に見ていくと「短歌」についての鑑賞がやや低い結果となっている。</p> <p>●評価の観点では、「国語への関心・意欲・態度」の値と「読む能力」の値がやや低く、問題形式では、「記述式」の正答率がやや低くなっている。</p>	<p>□日常的に文章を読む習慣が少なかったり、興味をもていなかったりするものが「関心・意欲・態度」や「読むこと」に関係していると考えられるので、授業の少しの時間を利用し、新聞の小コラムを読む時間を取る。</p>
数学	2年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。学習活動では、「返された答案の見直しをしている」「予習・復習をしている」割合が、全国平均より、5～9ポイント程度高い。</p> <p>●活用(表現力)、数学への関心・意欲・態度の正答率が低い。「授業で分からないことがあれば、先生に質問する」割合が、全国平均より約13ポイント低い。領域では一次方程式、比例・反比例の正答率が低い。</p>	<p>□基礎となる計算については、定期的に小テストを実施するなど、くり返し練習する場を作る。</p> <p>□問題を、数学としてどのように捉え、どのように解決していけば良いかという見方や考え方に注目させる。</p>
	3年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。図形の領域の正答率は全国平均を上回っている。</p> <p>○数学の勉強が好きだと答えている生徒の割合が全国平均より高い。</p> <p>●記述式の問題の正答率が全国平均を7%近く下回っており、全体的に無解答率が高いのが目立つ。</p>	<p>□既習事項の定着を図るため、定期的に復習問題に取り組む時間を設定する。</p> <p>□答えを求めめるだけにとどまらず、自分の考え方を説明したり、理由を書いたりする活動を増やし、いろいろな考えを共有する時間を授業の中に組み入れていく。</p>
社会	2年	<p>○全体的には全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。観点別に見ると特に「社会的な思考・判断・表現」が目標値を4ポイント程度上回っている。</p> <p>○解答形式別に見るとすべてで目標値を上回っており、特に「記述」による解答が4ポイント程度上回っている。</p> <p>●「世界の諸地域」における西アジア・中央アジアの産業と、「中世の日本」における時代区分と室町時代の国際関係についての理解度が低い。</p>	<p>□地図を活用して、自然、産業、生活・文化、歴史的背景を概観し、基礎的・基本的知識を身につけさせる。</p> <p>□時代の移り変わりを考察し、表現する学習の中で、資料から情報を読み取ったり、年表などをまとめる活動を取り入れる。</p>
理科	2年	<p>○基礎・活用を含め全体的には全国の平均正答率をやや上回っている。特に地球領域では全国の平均正答率を大きく上回っている。エネルギーと生命分野以外の項目では、全て目標値を上回っている。</p> <p>●自然に関する本を読んだり、TVを見たりする割合が低く、理科で学習した知識を周りに伝える活動をしている割合も高くはない。授業で分からないことがあっても、質問をしない生徒が半数はいる。</p>	<p>□単元の導入やまとめではデジタル教材を活用し、身の回りの現象についてより興味を持たせるようにする。</p> <p>□自然科学に関する新聞記事やニュース内容を適宜授業に取り入れ、身の回りに起こる現象を積極的に知ろうとする機会をつくる。</p>
英語	2年	<p>●全てのカテゴリーにおいて全国、市の水準を下回っている。特に観点別で見た「表現の能力」と「知識・理解」、領域別の「書くこと」の正答率が低い。</p> <p>●単語や語順を問う基本的な問題の正答率が低く、正しく文を書くまでに至っていない。短文、記述など「書く」解答形式も目標値を下回っている。</p> <p>○「聞くこと」に関しては全国の水準に近い。「関心・意欲・態度」にも同じことが言える。授業等で英語に耳から触れることには慣れていると感じられる。</p>	<p>□単語や基本文の反復練習を帯活動に入れ、その知識を生かして自己表現にまで至る工夫をし、書く機会を増やす。</p> <p>□ペアラーディングや歌など、生徒が好きだと感じている部分は継続して話したり聞いたりする力を伸ばしつつ、コミュニケーションへの関心・意欲が薄れないようにしていく。</p>
	3年	<p>○領域別の「聞くこと」や「短答式」の問題形式では、正答率は比較的高い。</p> <p>●まとまった英文を読んだり、聞いたりして、内容を表す絵や文を選ぶ問いの正答率が全国平均より6ポイント程度低い。</p> <p>●自分の考えを書くなどの「表現」に関する問いの正答率が全国平均より低く、無解答率が全国平均より高い。</p>	<p>□「話すこと」に関しては、帯活動等に話す活動を入れるなど工夫し、話す機会を増やす。</p> <p>□与えられた文を英語にするという活動だけでなく、自分の考えや意見を表す活動を積極的に取り入れる。</p>

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<p>○「話し合い」活動で相手の話をしっかり聞き取っていると答えた生徒の割合は高い。</p> <p>●「授業でわからないことがあれば、先生に質問をしている」と答えた生徒の割合がすべての教科で低い。</p> <p>●「話し合い」活動で自分の考えを積極的に話したり、考えを深めたりしたと答えた生徒の割合が全国に比べて10%以上低い。</p>	<p>□学習規律の徹底を図り、特に、傾聴力を身に付けさせる。</p> <p>□受け身ではなく、主体的に活動する取り組み(教え合い学習やグループ活動)を積極的に取り入れていく。</p> <p>□課題解決のプロセスを踏む場面を意図的に授業に組み込んでいく。</p>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<p>○「計画を立てて勉強に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、全国に比べて約9%高く、「宿題にきちんと取り組んでいる」と答えている生徒の割合は90%を超えている。</p> <p>●新聞の記事を読んだり、本や辞書を利用したりしていると答えた生徒の割合が低く、知らないことを自分で進んで調べようとする意識が低い。</p>	<p>□次時の授業の取組に結び付く課題を提供する(宿題の質や出し方を各教科で見直す)。</p> <p>□メディア接触時間について生徒の実態を把握し、個別指導を推進する。</p>
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	<p>○「朝食を毎日食べている」、「学校での出来事を家の人に話している」という項目で肯定的な回答をする生徒の割合が全国に比べて高い。</p> <p>●睡眠やメディアに関する項目で肯定的な回答が低く、家庭の中で自分の生活をコントロールできていないという実態が見受けられる。</p> <p>●地域の行事に参加していると答えた生徒の割合が低い。</p>	<p>□学校保健委員会と連携し、睡眠不足や過度なメディア接触が及ぼす健康被害についての講演会を開催する。</p> <p>□新聞やニュースをもとに地域や社会で起こっている問題やできごとを積極的に話題にしたり、総合的な学習の時間に地域のことを調べる活動を取り入れたりとすることで地域について興味や関心をもたせる。</p>

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立河南中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○2年生は、国語・数学・社会・理科の教科全体の平均正答率が、出雲市・全国平均を上回っているため、中学1年生の学習内容をおおむね理解し、定着させることができていると考えられる。  
 ●英語は、教科全体の平均正答率が、全国に比べて少し低い結果となった。授業で話をしっかり聞き、宿題や復習をきちんとしている生徒の割合は高いので、1年生の学習内容を復習し直し、基礎・活用の力を付けていく必要がある。  
 ●3年生は、昨年度の市学力調査ではどの教科も全国平均を上回っていたが、今回は伸び悩んだ。2年生での学習内容が十分理解できていないことや、新しい傾向の問題に戸惑ったことが原因として考えられる。各教科の不得意な領域・観点を中心に、基礎力を定着させ、さらに表現力を身に付けさせることが課題である。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全国平均を少し上回るか同程度で、おおむね良好な状況である。 ○宿題やノート整理をきちんと行い、分からないことは授業で質問している。 ●今回は「漢字を読む」問題の正答率がやや低かった。 ●文章全体の意味を把握せずに、その問題の前後の文や接続詞などだけで、登場人物の心情を捉えようとしてしまう生徒が多い。	○文章の種類に関係なく、文章全体を読んで、書かれている内容を捉えるような読み方を習慣づける。 ○教科書掲載の漢字については、反復練習だけでなく、語彙として使えるような学習を取り入れる。 ○読書活動を推進し、様々なジャンルの文章に触れさせる。
	3年	○課題に合わせて、作文を書こうとする意欲が見られた。 ○宿題や課題に、真面目に取り組もうとしている。 ●質問の内容を正確に捉えずに、問題に答えようとしている傾向が見られた。 ●既存の知識を照らし合わせて、課題を考える力が十分ではない。	○文章を読むときに、自分の考えを持ちながら読んでいけるように、日頃から授業の中で意識させる。 ○積極的に語彙を増やすという意識を生徒に持たせ、授業の中でも言葉に関する知識を紹介していくようにする。 ○作文を書く機会に、いろいろな種類の作文の書き方を練習する。
数学	2年	○平均正答率は市や全国を上回っている。基礎問題の正答率が高い。 ○領域、観点別でも、ほとんどの項目で市や全国の平均を上回っている。特に「関数」領域、「技能」観点の正答率が高い。 ●基礎に対して、活用問題の正答率が市や全国より若干低い。領域では、「資料の活用」のみ、正答率が市や全国より低く、課題があるといえる。	○「資料の活用」については、前年度末に学習した内容が定着していないので、機会を見て振り返りし、定着を図る。 ○各単元末にあるまとめ問題等を利用して、活用問題を時間をかけて考えさせ、話し合い活動も行いながら、数学的な見方・考え方を高めていく。
	3年	○領域では「関数」、評価の観点では「数学的な技能」の正答率が高い。 ●「資料の活用」に関する問題や、グラフや数式が表すものを読み取る問題の正答率が、市や全国に比べて、かなり低い。「資料の活用」については、グラフや数式を作ることはできても、そのグラフや数式の表す意味を十分に理解していない。	○「資料の活用」については、1年次に授業したあとで扱う機会がほとんどなかったため、折に触れて用語の意味等振り返るようにする。 ○グラフや数式を作るだけでなく、その表す意味を口頭や文章で表現する活動を多く取り入れる。
社会	2年	○平均正答率は市や全国を上回っている。 ○観点では、「社会的事象についての知識・理解」が市や全国を上回っている。その他の観点は目標値に対して同程度である。 ●資料を読み取る力が不十分である。 ●既存の知識と問題の選択肢を見て考える力が不十分である。	○授業で多くの資料を用いる。 ○授業で複数の資料を対比させる活動をする。 ○資料から得た知識や複数の資料の対比から得た概念を表現する活動をする。
理科	2年	○「観察・実験の技能」の正答率が全国平均を大きく上回っている。基礎・活用ともに全国平均を上回っている。 ●「表現力」に関しては市の平均よりやや低く、課題がある。内容を分析すると、力を矢印で表す選択問題と力とばねの伸びる長さの関係を考える穴埋め問題での表現力が不十分であった。	○力を矢印で表現するとき、矢印の始点、向き、大きさが力の何を表すかを理解していないことから、今後はまず基礎的な内容をきちんと理解させる必要がある。 ○比例式の計算式を用いて問題を解くこと、基本的な計算力を高めていく必要がある。数学科と連携を図り、表現力を高めていく。
英語	2年	○問題の内容別では、リスニング(内容理解)、様々な英文の読み取りの正答率が高い。観点別では、外国語理解の能力が高い。 ●問題の内容別では、リスニング(対話文の応答)、場面に応じて書く英作文、3文以上の英作文、領域別では書くことの正答率が低い。観点別では、外国語表現の能力が低い。	○リスニング(対話文の応答)の練習を定期的に行う。 ○ライティングの練習を多く取り入れる。 ○場面設定をした表現活動をさせる。(外国の友達に手紙を書く・海外の人に道案内をする)
	3年	○領域では「聞くこと」、評価の観点では「言語や文化についての知識・理解」、問題の内容では「英文の空所に入れる適切な語句を選択する」正答率が高い。 ●「聞いて把握した内容について、適切に応じる」、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」問題の正答率が低い。スピーキングでの無回答が多く、正答率が低い。	○テーマを与えて、2〜3文で文章を書く練習をくり返し行う。 ○単元ごとに、最後には英語を使って表現する場面を作る。 ○やや長めの文を用いた英問英答のペア学習をするなど、スピーキング問題に慣れる活動を多く取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○2年生は、国語・理科の授業では、「分からないことがあれば、先生に質問している」生徒の割合が全国より高い。 ●分からない言葉や事柄について、辞書を引いたり調べたりする生徒の割合が全国より低い。 ●3年生への質問で、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と感じている生徒の割合が、全国・県と比較すると、約10%低い。	○授業のために予習をして、生徒自身が興味や課題意識を持って学習に臨めるような習慣を身に付けさせる。 ○授業で、辞書を利用して調べる機会を増やす。 ○話し合う必然性のある課題を設定し、ペアやグループで互いの考えを交流し、思考を広げられる活動を積極的に取り入れていく。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○2年生は、「自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒の割合が、全国より高い。3年生も、全国・県より高いが、より多くの生徒が計画的に勉強すべきだと考える。 ●「学校に行く日に、学校の授業時間以外に、1日2時間以上勉強をする」生徒の割合が、2年生は7.4%、3年生は10.3%と、全国と比べてかなり低い。	○現在実施している学力向上のための取組、「自学ノート」と「月例テスト」の成果と課題を把握し、家庭学習の時間確保と質を高める方法を検討していく。 ○基本的な生活習慣の確立を促すとともに、家庭でのメディアとの接し方について、PTA活動を通して働きかける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合は、2年生・3年生とも44%を超えているが、3年生は全国・県の割合よりやや低い。学校全体としては、地域のボランティア活動に進んで取り組んでいると思うが、参加していない生徒も多くなる。 ●「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が、2年生は72.2%で全国より高いが、3年生は、62.9%で全国・県よりやや低い。	○ふるさと・キャリア教育を通して、自らの生き方を見つめさせるとともに、「職場訪問」「職場体験学習」「ボランティア活動」など、地域や社会に触れる経験を多く積ませていく。 ○修学旅行自主研修に「出雲子ども観光大使」の活動を取り入れ、ふるさと出雲のよさを再認識する機会を設ける。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立浜山中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 学年や教科によって多少の差はあるが、平均正答率は、市・県・全国の平均値と同等または上回っている。
- 授業規律が整っており、学習に対して真面目に取り組む生徒が多い。
- 家庭や地域との関係は良好な結果が出ており、積極的にボランティア活動に参加する生徒も多い。
- 基礎的な知識を活用して考え、記述して解答する問題には課題がある。
- 家庭学習については、与えられた課題に対しては真面目に取り組めるが、主体性には課題がある。また、時間についても全国平均を下回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全体的に、平均正答率は全国・出雲市平均とほとんど変わらず、概ね良好である。特に、文法・語句に関する問題、文章中の描写や表現の特徴をとらえる問題において、成果を上げている。 ●漢字の読み書きや文章の構成をとらえる問題においては課題がある。	□基本的な漢字の読み書き指導に継続的に取り組む。基礎力テストや定期テストに向けての宿題(漢字練習帳)を点検し、間違えた箇所をやり直しをさせるなど、きめ細かな指導を行う。 □説明的文章・文学的文章の単元においては、全体の構成をとらえるような課題をもとにした授業づくりを行う。
	3年	○平均正答率は、全国・県・市平均に比べて、全ての項目で上回っており、概ね良好である。とりわけ書く能力、言語についての知識・理解・技能の問題においては、平均を大きく上回っている。 ●記述式の問題においては一定数無回答の生徒がいる。	□新聞コラムを利用し、さまざまな分野の文章を定期的に見る機会を設定する。段落ごとの要約や全体の感想や批評文を書かせることで、中心文を見つける力、自分の思いを文章にして表現する力をつける。優秀な作品や主旨や意味があいまいな例を提示することで考える視点やヒントを与え、推敲させる。
数学	2年	○全体的に、平均正答率は全国・出雲市平均を上回っており、良好である。特に、「資料の活用」の問題において、成果を上げている。 ●活用問題について、平均正答率が全国・出雲市平均を上回っているものの目標値には届いておらず課題である。	□計算問題の反復練習や小テストなどに取り組ませることで基礎の定着を今まで以上に図り、その上でペア・グループ活動を利用して活用問題に取り組ませる。
	3年	○平均正答率は、全国・県とほぼ同等であり、概ね良好である。特に、数学的な見方・考え方に関する面が優れている。 ●正答率が生徒によって大きく異なり、学力が二極化している様子が窺える。	□発展的な問題に多く取り組ませることで、数学的な見方・考え方に関わる力を一層伸ばしていく。 □基礎力テストなどを実施し、結果をもとにした補充学習に取り組ませることで個別の学力保障に努める。
社会	2年	○全体的に全国・出雲市平均よりも高い正答率であり、特に歴史的分野の知識・理解面が優れている。 ●「世界の諸地域」の正答率が若干低い。これは、地球を立体的にとらえることや、緯度・経度についての理解、グラフ・地図を読み取る力が充分定着していないと考えられる。	□グラフ、地図などの資料を読み取る学習を更にすすめ、資料活用能力を鍛える。 □グループやペアでの話し合い活動を積極的に取り入れて、お互いの意見を聞き、発表しながら、思考を深めさせる。
理科	2年	○平均正答率は、全国平均を上回っている。市平均にはわずかに及ばないものの概ね良好な状況である。特に実験・観察の技能に関する面が優れている。 ●「エネルギー」の領域に課題がある。特に「光の性質」と「音の性質」の正答率が低い。	□生徒に計画、仮説を立てさせて実験・観察を実施する。実験を通して事象を正しく理解させる。 □見方考え方を深め、思考力を高めるために、実験・観察後の考察については、科学的根拠に基づく話し合いをさせ、自分の考えをワークシート等に文章で記録させる。
英語	2年	○平均正答率は、市・全国をやや下回るが、おおむね同程度であり、良好な状態と考えられる。 ●語彙の知識・理解と語順の理解が不十分で、正答率が低い。特に書くことについて課題のある生徒が少なくない。	□単語テストや復習テストを継続して行い、基礎基本の定着を図る。また文型ドリルを通して、語順の理解と定着をめざす。 □ワークシートやノートで「書くこと」を徹底して行う。 □スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動を取り入れる。
	3年	○正答率は、市・県・全国ともに上回っており、概ね良好である。特に聞くこと、読むことについて優れている。 ●書くことについて、十分に定着していない文法事項が認められる。また話すことについては、用いる語句はよいが、文章で正しく答えることに課題がある。	□単語テストや復習テストを継続して行い、更なる基礎内容の定着を図る。 □ペアやグループでの言語活動を積極的に取り入れ、内容の充実を図るとともに、正しい文章で話せるようになることを目指す。また、スピーチやプレゼンテーションなどの活動の機会を増やす。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○自己肯定感・集団への帰属意識に関わる質問への肯定的回答が全国平均に対して高く(10%程度)、対話的な学びに取り組むやすい集団であることが窺える。 ○対話を通して学びが深まったり広がったりしていると回答している生徒が多い。(約75%) ●授業での学びを生活の中で生かしたり、将来の夢につなげようという主体性に課題がある。	□各教科・領域での「学び合い」や学級活動での話し合い活動を積極的に取り入れ、課題解決型の授業を展開する。また、計画的に授業公開を行い、お互いの授業を見合うことで研修を深める。 □望ましい勤労観・職業観の育成を図り、学ぶ目的や教科の有用性を明確にさせる。(キャリア教育の充実)
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○各教科において「授業で習ったことを復習している」「宿題をきちんとしている」との回答が全国平均に対して高く(各5～10%程度)、与えられた課題に真面目に取り組める生徒が多い。特に、「学力調査結果中間層の生徒が粘り強く学習に取り組んでいる」。 ●予習をするなど自ら進んで学習に取り組んでいる生徒は少なく、時間的にも平日2時間以上家庭学習をしている生徒の割合が全国平均より低い。(2年 7.2%・3年 16.1%)	□家庭学習の充実と生活習慣の見直しを、保幼小や保護者と連携して継続的に取り組む。 □学習計画表を活用し、短期的な課題を設定することやその課題に計画的に取り組むことを指導する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「学校での出来事を、家の人に話している」等の回答が全国平均に対して高い(各8%程度)。また「地域が好きである」と回答した生徒も全国平均をやや上回っている(3%程度)。職場体験学習等の学校の活動に地域が非常に協力的であり、家庭や地域との連携は取りやすい状況にある。ボランティア活動に参加する生徒も多い。 ●「新聞の記事を読んで」「ニュースを見ている」との回答が全国平均に対して低く(各5～10%程度)、社会に関心をもって関わろうとする意欲は低い。	□生徒会や部活動単位でのボランティア活動や地域の行事への参加を働きかける。 □地域学校運営協議会やPTAとの連携を密にする。 □図書室や廊下などに生徒が新聞を手に取りやすい環境を作る。また、生徒会活動の中で生徒が時事問題に関心を持つような取組を継続して行う。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立南中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 3年生の国語、数学で全国等の平均正答率を上回っており、基礎・基本の定着が概ね確認できる。
- 2年生の数学、社会で全国等の平均正答率をやや上回っている。
- 2、3年生の英語で全国等の平均正答率を下回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全体的に市・全国平均値を上回っているか同等であり、昨年度までの学習内容が概ね定着していると思われる。 ●文章の読み取りに課題が見られる。	□今後も「学び合い」学習(4人グループやペアで話し合い、考え合い、聴き合う学習)を通して、さらに学習内容の定着を図る。 □段落構成を考えて文章を書いたり、要約文を書き推敲し合ったりする機会を設定し、書く力の向上を図る。
	3年	○全体的に市・全国平均値を上回っており、昨年度までの学習内容が概ね定着していると思われる。 ●文章の展開に即して、与えられた情報を整理する力を伸ばしていく。	□説明文を読み取る時には、事実と意見をしっかりと区別し、内容を整理したり、図や表を読み取り、内容をさらに深めたりする時間を授業中意識して設定する。
数学	2年	○市平均値とは同値で、全国平均値をやや上回っている。 ○正の数・負の数、文字式に関して正答率が高い。 ●関数の分野で誤答が多い。	□今後も「学び合い」を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □比例・反比例の本質的な理解が深められるように、題材を工夫して授業づくりを行う。
	3年	○市、県、全国平均値とも上回っており、昨年度までの学習内容が概ね定着していると思われる。 ○全領域で県平均値を上回っている。 ●関数領域でわずかに全国平均値を下回っている。	□今後も「学び合い」を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □関数領域を復習しながら、応用問題に取り組み、さらに学力の向上を図る。
社会	2年	○市平均とは同値で、全国平均値をやや上回っている。 ○思考力・判断力の問題は、市・全国平均値を上回っている。 ●知識・理解の問題で、全国平均値を下回る場合が比較的多かった。	□今後も「学び合い」学習を通して、学習内容の定着を図る。また、不得意分野を適時復習することで定着を図る。 □小テストを定期的に行う。また、家庭学習での復習を促し、学習内容の定着を図る。 □自主学習のやり方を示したり、基礎・基本をさせるためのプリント・ワークシートの作成や小テストの実施をしりする。
理科	2年	○化学分野は全国平均値を上回っている。 ●市・全国平均値を下回っている。 ●特に物理分野を苦手としている。 ●記述問題や活用問題への苦手意識が感じられる。	□実験や観察を多く実施し、実験結果を考察する過程を重視して、思考力や表現力を養いたい。 □ワークやプリントを利用し、基礎的な知識の定着を図る。また、「学び合い」学習を通して、活用問題に取り組みよう授業展開の工夫を行っていく。 □家庭学習での復習を促し、学習内容の定着を図る。
英語	2年	●市・全国平均値を下回っている。 ●リスニングでの対話文の応答、語彙の知識・理解、語形・語法、英作文での問題を特に苦手としている。	□授業での生徒同士のコミュニケーション活動は上手にできているが、正確な表現ができるまで高まっていないので、授業の工夫を行っていく。 □語彙の知識・理解、語形・語法の不足が顕著。正確に表記できないことが原因で、他の問題もできないことに波及している。語彙力を強化するため、毎時間小テスト等の実施で苦手意識の克服を目指す。
	3年	●市・全国平均値を下回っている。 ●特に書くことが苦手な英作文が弱い。	□普段の授業から英語で「書く」活動を多く取り入れるように工夫する。 □語彙力、文法力を伸ばせるよう引き続き小テスト等を実施する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」など学習活動に関する意識調査では、肯定的な回答をしている生徒が全国等の平均値よりも高い傾向にある。(3年生調査) ●「グループ活動等をよく行っていたか」に対する肯定的な回答が90%を超えている一方、「授業で自分の考えを発表したり、書いたりする」ことを苦手としている回答が80%を超えている。(2年生調査)	□各授業で、授業の目標を示したり、振り返りなどをしたり授業法の改善や工夫を行っていく。 □道徳教育の取組を通して、学級づくりを行い、安心して学べ、お互いを高め合う学習環境をつくる。 □言語活動を充実させ、生徒が主体的に取り組んでいける授業、学校行事、生徒会活動等を積極的に行っていく。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「家の人に言われなくても進んで勉強している。」など家庭学習に関する意識調査では、肯定的な回答をしている生徒が全国平均値よりも高い傾向にある。(2年生調査) ●「自分で計画を立てて勉強している」生徒は県・全国平均値並みだが、学習時間では「1時間未満」の生徒が42%程度あり、全国平均と比べても高い傾向にある。	□各授業で家庭学習の課題を明確に示し、課題への取組を点検し、授業の中にかさす。 □基礎・基本の定着を図るために、個別に家庭学習の指導を行う。 □学習計画表を作成したり、学習ガイダンスを行ったりして、学習への向き合い方に気付き、見直す機会とする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」生徒の割合は80%前後で、全国平均値と比べてもかなり高い傾向にある。(2、3年生調査) ○「規則を守る」、「困っている人がいれば助ける」など社会的、道徳的に関する意識調査では、肯定的な回答をしている生徒が90%を超えており、全国平均値を10~20%上回っている。(2、3年生調査)	□道徳教育の取組を通して、心身ともに強くたくましく、思いやりの心を持ち、想像力豊かな生徒の育成を図る。 □コミセンと連携し、ごみゼロ活動や地区民運動会等への参加を継続的に行う。

平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 「学校に行くのが楽しいと思う生徒」の割合が全国平均よりも大幅に多い。
- 全国平均と比較して、「平日にテレビ・DVD・ゲームを1時間以上利用する生徒」が多い。また、家庭での学習時間が全国・出雲市平均と比べて少ない生徒が多い。
- 社会科、理科の平均正答率は、全国平均を上回っている。
- 数学・英語には課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○問題の内容別では「文法・語句に関する知識」に関する正答率が、全国・市と比較して高かった。歴史的仮名遣いや故事成語など、1年生古典分野で学習したことが定着していると考えられる。 ●「記述問題(55字)」「作文問題(200字)」において、無回答や条件に合わない解答が全国・市と比較して多かった。「記述問題(20字)」では、大差はなかった。	□記述の力を高める手立てとして主題や筆者の主張を50字程度で書く活動を取り入れる。答え方のポイントや必要なキーワードを示し、書くことに抵抗がある生徒も取り組みやすくする。 □「書くこと」の領域の学習では、その単元で身につけたスキルを明示する。手本を示したり、応用的な課題に挑戦したりして、獲得したスキルを確実に使えるようにする。
	3年	○全体として全国、県の平均くらいの結果となっており、「読むこと」については高い正答率となった。 ○「国語への関心・意欲・態度」の平均正答率が高く、前向きに取り組んだ様子がうかがえる。 ●「封筒の書き方」は、生活の中での経験も少なく、低いポイントとなった。 ●「全ての書く問題で最後まで解答を書くことと努力した。」生徒の割合が国や島根県平均と比べて少ない。	□書く問題については、様々なタイプの問題を提示し、書き方も示しながら指導して、問題に取り組もうとする意欲を高める。 □「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、生徒が興味を持てるような学習内容や話題を提供する。
数学	2年	○基本的な計算はできている。 ●「図形」「資料」の単元において、無回答が多く、正答率が低かった。 ●1年生の学習内容で、後半に学習する単元と、「文字式」や「方程式」などのように、学年の前半に学習し、なおかつ繰り返し登場してくる単元での正答率に差がある。	□後半行う単元(繰り返し登場しない内容)については、特に数学的活動を工夫する等して充実を図る。 □単元毎に単発的な指導をするのではなく、より全学年や単元間などの学習内容の関係づけを意識した授業改善をする。 □「プリント配信システム」を効果的に活用する。
	3年	○基本的な計算や、問題文が短い問題は正答率・回答率共に高い。 ●「図形の証明」「数の性質の証明」の無回答率が高い。 ●問題文が長い問題の正答率が低く、無回答率が高い。問題文が長くなると選択式、記述式問わず、回答を避ける傾向にある。 ●数学に対する苦手意識が高い。	□定期テスト、各授業において積極的に記述問題を扱う。授業では、スモールステップによる、きめ細かな指導をより徹底する。 □各単元の活用の場面等で教科書の問題だけではなく、長い問題文の問題や、全国学力調査の問題を積極的に扱っていく。 □「プリント配信システム」を効果的に活用する。
社会	2年	○どの観点においても全国並みの力がついており、特に関心・意欲は全国平均を上回っている。 ●資料を読み取って考えたり判断したりすることが苦手である。 ●分からないことを能動的に調べたり、友達と考えを深めたり、生活経験とつなげて考えたりすることが少ないと考えられる。	□自分で資料を用いて調べて、レポートや作文にまとめるような学習内容を仕組むことで、資料を活用したりじっくりと考えたりする力を伸ばす。
理科	2年	○どの領域でも全国平均よりも正答率が上まわっており、特に「実験技能」は高かった。 ○化学分野の「粒子」の内容の理解が高かった。 ●生物分野や地学分野の正答率が市平均を下まわった。 ●実験結果から考察し、表現する力が弱い。	□習熟度テスト等に合わせた復習の機会をつくる。 □実験・観察をもとに何がわかるかを考え、表現する力をつけていくために、話し合い活動を積極的に取り入れていく。
英語	2年	○「基礎」は、概ね出雲市の平均正答率と同じであった。 ○領域では、「聞くこと」の正答率が出雲市平均を上回った。 ●「活用」は、出雲市・全国平均を下回った。「観点」では「外国語表現の能力」領域では「書く」、問題の内容では「語彙の知識・理解」と「3文以上の英作文」に課題が見られた。	□新出単語・文型の理解・定着を図るため、単元やページごと的小テストを継続して行う。また丁寧な反復して指導を行う。 □単元ごとに、教科書本文を内容理解した後、自分の意見を「書くこと」につなげられるよう工夫して、習ったことを「活用」する時間を確保する。
	3年	○生徒質問紙では「1・2年生の授業ではスピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」「英語の授業はよくわかりますか」という質問に肯定的に答えた生徒が全国平均を大きく上回っている。 ○「理解の能力」は県平均を上回り、「表現の能力・話す」は全国平均を上回った。 ●「表現の能力・書く」「基本文や語彙の知識・理解」は県平均を下回った。	□授業で基本文や語彙のテストや復習を行ったり、家庭学習の内容を指導したりして、既習事項の定着を図る。 □即興で、応答したり、自分の考えを表現したりする学習活動を増やして、思考力・判断力を養うとともに、自信をもって表現する力を養う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	【2年生】 ○「授業の始めのめあてやねらいが示されていた」が92.3%、「授業の最後に学習した内容を振り返る活動がよく行われていた」が84.4%と高い。 ○授業では、「学級の友達と話し合う活動をよく行っていた」が82.6%、「授業などで、自分の考えを発表したり文章に書いたりすることは難しい」という質問に、あてはまると答えた生徒が61.2%で、出雲市平均とはほぼ同じであった。 【3年生】 ○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いませんか。」「70.8%「学級みんなで話し合っで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。」「90.7%「学校に行くのは楽しいと思いませんか。」「87.5%と全国平均を大きく上回っている。 ●昼休みや放課後、休日に、図書室や地域の図書館に行き、本を読んだり借りたりする生徒が少ない(全く行かない生徒が61.6%)。しかし、「読書は好きだ」と答えた生徒は、全国・県平均よりも高い。	□授業とつながる家庭学習、家庭学習につながる授業を設計する。 □日頃から200字程度の長さで自分の考えとその理由をまとめる活動を授業の中でも繰り返し行う。学習の記録、感想文、日記など数多くの場面で書いたり話したりする場面を設け、経験を積ませる。 □各教科で図書館を活用する授業を積極的に取り入れる。また、図書ホールが生徒にとって落ち着いて読書を楽しめる空間になるように、書架などの配置換えを行い環境を整えたり、生徒会活動の一貫として「おすすめ図書コーナー」を設置し、読書の幅を広げる活動を行ったりする。 □学年部の取組(学級におけるグループ活動等)との連携をさらに深め、学び合いや表現力の育成等各教科の授業改善の充実を図る。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	【2年生】 ●学校に行く日の家庭学習の時間で最も多いのは「30分くらい」の生徒で32.0%。(全国平均は「1時間くらい」が最多で26.0%)「2時間以上学習する生徒」は5.8%と大変少ない(全国平均は16.3%)。土日に1時間以上家庭学習する生徒が43.7%で出雲市平均(59.6%)より大幅に少ない。 ●睡眠については、「11時頃に就寝する生徒」が27.2%、「7～8時間程度の睡眠をとる生徒」が28.2%であり、全国平均とはほぼ同じ傾向であった。平日「テレビ・DVD・ゲームを1時間以上する」生徒が83.5%で出雲市平均より15%以上多い。 ●家庭学習に「参考書・問題集を利用している」が44.7%、「図書館利用」が14.6%、「辞書利用」が28.2%と低い。 【3年生】 ●平日2時間以上家庭学習をする生徒の割合が14.5%で、全国平均35.5%と比較して半分以下である。	□「学習の手引き」をもとに、各教科で家庭学習の仕方を指導する。 □家庭学習の時間の確保のために生活時間の見直しやメディア利用の改善の働きかけをする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	【2年生】 ○将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒が、75.7%で全国平均71.9%より多い。 ○家族との関係では「決めた約束やまきりを守っている」「家の人にあいさつをしている」「家の人に出かける先を伝える」が85%を超え、「学校での出来事を話している」が75.7%と高かった。 ○「地域の行事に参加している」が58.3%であり、全国と比較して大幅に高い。 【3年生】 ○地域の行事等への参加率は、全国平均よりも高かった。 ●将来の夢や希望をもっている生徒が63.6%で全国平均70.5%より少ない。	□様々な職業に触れたり、働くことの意義を考える等のキャリア教育を行い、将来の夢や目標を具体的にするとともに、見直しをもって計画的に実現を目指すように指導する。 □保育園(園)・幼稚園・小学校・中学校が連携をして、基本的生活習慣の確立を図る。 □校報や通信、ホームページ等によって、学校の情報提供を充実させる。



# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立向陽中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 国語、社会、理科が全国・県・市の平均正答率を上回りました。
- 2年生数学が全国・市の平均正答率を下回りました。
- 2、3年生英語が全国・県・市の平均正答率を下回りました。
- 学習状況調査(学習への姿勢や学校・家庭での生活の様子の調査)においては、全ての設問で肯定的回答の割合が、全国・県・市の平均と同等か上回りました。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全領域で、全国平均、市平均を上回っています。特に、説明文・文学作品の内容を正確に読み取る力が身についています。 ●「話し合いの内容を聞き取る」問題では、全国平均、市平均を下回っています。 ●「漢字を書く」問題での正答率がやや低いです。	□日々の授業の中で、繰り返し漢字指導を行い、基礎的な漢字の力の定着をはかります。漢字検定等への呼びかけも行います。 □「話す・聞く」力を伸ばすための学習活動(少人数での話し合い活動や聞き取り問題など)を計画的に実施します。
	3年	○全領域で全国・県の平均正答率を上回り、特に「話す・聞く」分野でより上回りました。 ○無解答率が低い傾向にあります。 ●「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」「語の一部を省いた表現について、適切な活用仕方理解する」という問題の平均正答率がやや低いです。 ●言語に関する知識を高めていく必要があります。	□授業や定期テストにおいて「根拠を明確にして書くこと」の練習を行ったり、目的に応じて情報を読み取ったり、資料を活用したりする学習を行います。 □授業中適宜、語彙に関する解説を行います。また、慣用句・ことわざ等の語彙を増やす学習を行います。
数学	2年	○全国平均とほぼ同程度で、概ね良好な状況です。 ○領域では「数と式」「図形」に強みがあります。問題の内容では、特に「一次方程式」「空間図形」に強みがあります。 ●領域「資料の活用」に課題があります。問題の内容では、「資料の散らばりと代表値」に課題があります。	□復習として行っている毎時間の小テストで「資料の活用」領域の回数を増やします。 □自学用のノート「Bノート」の材料として、「資料の活用」領域の問題を生徒に紹介します。 □「資料の活用」領域の不十分だった点は、補充指導を行います。
	3年	○領域別では「数と式」「図形」「関数」の分野で全国・県平均を上回りました。 ○「数と式」の分野では、計算問題を解く力は概ね定着しています。 ○数学Bの記述式問題の正答率は、ほぼ全国平均ですが、無解答率は全国平均や県平均と比べて大きく下まわっています。 ●「資料の活用」は、全国平均、県平均を下回りました。	□「資料の活用」の領域を中心に復習していきます。 □記述式の問題を今後も出題していきます。 □単元ごとのテストを今後も定期的に行います。
社会	2年	○全国平均、市平均を上回っており、おおむね良好です。 ●「地球の姿をとらえる」「世界の地域構成」が全国平均、市平均を下回りました。	□世界地理を復習する機会を随時設けていきます。 □習熟度テスト前に、世界の地域構成を確認します。
理科	2年	○全体の正答率は全国、市の平均を上回っており、基礎の定着についてはおおむね良好といえます。 ●「力と圧力」の領域で目標値を0.1ポイント下回りました。目に見えない力の大きさや力のはたらく点などの物理現象をとらえることに課題があります。	□問題演習、作図練習をする機会を設けていきます。 □自然現象を論理的にとらえ、自分の言葉で説明したり、文章で説明したりする機会を設けていきます。
英語	2年	○英文を理解する力は概ね良好です。 ●基礎に課題が見られます。特に語彙の知識・理解、英文を書くことに課題があります。	□1年生の時に学習した英単語を復習する機会を設けます。 □まとまった量の英文を書く活動を多く取り入れます。 □話す力を伸ばすために即興のやり取りをする活動を増やします。
	3年	○与えられたテーマについて自分の考えを書いたり、書かれた内容について自分の考えを述べることは県平均を上回っています。自分の考えを述べる等の作文に関しては概ね良好です。 ○無解答率が極めて低いです。 ●「話すこと」、特にやりとりに即興で加わることに課題があります。	□正確に質問に答えるために既習事項を繰り返し練習する機会を増やします。 □語順を定着させるための活動を増やします。 □話す力を伸ばすために、即興のやり取りをする活動を取り入れます。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○友達と協力して学習する機会が多く設けられていると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。グループ活動などの協働学習がよく行われていると考えられます。 ○授業で話し合い活動を通して自分の意見を話し、考えを深めたり広げたりできていると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。主体的に対話を重視した学習がよく行われていると考えられます。	□授業において効果的な「めあて」と「ふりかえり」の場面を設定します。 □授業においてグループやペアでの活動を積極的に導入し、対話を通して学びを深める学習をさらに進めます。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○1時間以上家庭学習をしていると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。家庭学習の時間は概ね確保されています。 ○家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。定期テスト前の家庭学習を、全学年で学習計画を立てて行っている影響が考えられます。	□家庭学習を2時間以上行う生徒の割合を増やすために、授業と連動した効果的な宿題の提示に努めます。 □生徒・保護者と学級担任の教員との面談において家庭学習の状況を確認し、それぞれの生徒に合った家庭学習の方法について助言をします。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域や社会の出来事や問題に関心を持つ生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。 ○地域の行事に参加していると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。地域へ愛着を感じ、実際に地域のために行動している生徒の様子がうかがえます。	□総合的な学習の時間や学校行事などにおいて、地域についてより深く学ぶことができる学習活動を推進します。 □ホームページや学年・学級だよりを通して、地域や保護者への情報発信を積極的に進めます。 □学校だけでなく、地域の皆さんへの挨拶がしっかりとできるように指導していきます。



# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立佐田中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○3年生は、昨年度2年生時の「市学力・学習状況調査」と比較すると、すべての教科にわたって平均正答率が上がった。その結果、今回はほとんどの教科で全国・県・市の平均正答率を上回ることになった。  
 ○2年生はすべての教科で全国・市の平均正答率を大幅に上回った。特に〔観点別〕では、概して関心・意欲・態度でその割合が高い。  
 ○基本的な生活習慣、生活規律が身につけており、主体的な生活の仕方や他者との関わりが上手くできていることから、自己肯定感も比較的高いと言える。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○文学作品の内容の読み取りについては、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●説明文の内容の読み取りについては、市の平均正答率を下回っているところに課題が見られる。	□説明文の作品を、文章の構造や組み立てに気を付けながら読み取る機会を多く持つ。 □筆者の主張、事実、具体例を明確に区別して読み取るように指導する。
	3年	○概ねどの領域でも市・県・全国の平均正答率を上回っている。 ●文章の構成や展開、表現の仕方を捉え、書き手の目的・意図を考えたり、その効果について考えたりすることに課題が見られる。 ●話し合いの中で、課題の解決に向けた自分なりの考えをもつことに課題が見られる。	□文章の構成を意識し、筆者の展開や表現の特徴を考えながら読む。 □読み取った内容や自分の考えを整理し、的確にまとめ、伝え合う機会を多くもつ。課題のある生徒については、予め自分の考えを文章にさせておくなどしたい。
数学	2年	○全体を通して、全国の平均正答率を上回っている。〔領域別〕では、資料の活用、数と式、関数、図形、〔観点別〕では、数量や図形などについての知識・理解、数学的な技能、数学的な見方や考え方、関心・意欲・態度で、特に平均正答率が高い。 ●関数の定義、図形の移動、図形の作図にやや弱みが見られる。	□関数の定義については、授業の中で、意識をしながらことばを使う。 □図形では、移動については、具体物を操作して、移動前と移動後の変化に気付かせる。また、作図の際には、その意味や根拠をしっかりと考えさせる。
	3年	○平均正答率は、国・県・市ともに上回った。特に〔領域別〕では、図形、資料の活用、数と式が、〔観点別〕では、数学的な技能、数学的な見方や考え方で平均正答率が大きく上回った。 ●〔領域別〕では、関数が、〔観点別〕では、数量や図形などについての知識・理解に弱みが見られる。	□関数については、表、式、グラフの互換を意識させることに加え、実生活と関連させながら関数をイメージさせる。 □言語活動の中で、正しい言葉や単語を積極的に使う取組をする。教師の説明も模範となるように努める。
社会	2年	○全体を通して、目標値および全国・市の平均正答率を上回っている。特に歴史的分野の正答率は全般的に高い。 ●地理的分野の問題で、「地図中の緯度と経度を読み取ることができる」「緯線と経線が直角に交わる地図について、その特色を把握することができる」が目標値を下回っている。	□緯度・経度・時差についての理解が弱いことから、地球儀や視覚資料を活用し、視覚的・体験的に理解させることが必要である。その際、ペアやグループでの活動によって互いに教え合うなど、協働して課題を解決できるように工夫していきたい。
理科	2年	○全国・市の平均正答率を上回った。〔領域別〕はすべてにわたり、また、〔観点別〕では、自然事象への関心・意欲・態度、観察・実験の技能、自然事象についての知識・理解が特に高い。 ●科学的な思考・表現として、植物の分類(生命)、水溶液の性質(粒子)、地層(地球)に弱みが見られる。	□今後習熟度テストなどを実施した後、授業で問題の解説をするなどして指導していく。例年弱みとなりやすいところなので、時間をかけて授業で取り扱う。
英語	2年	○全国および市の平均正答率を大幅に上回った。〔基礎・活用〕では、特に活用の正答率が高い。〔領域別〕では、書くこと、読むこと、また、〔観点別〕では、外国語表現の能力、言語や文化についての知識・理解が特に高く、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、そして外国語理解の能力の点でも平均正答率を大幅に上回っている。	□弱みではないが、外国語理解の能力(書くこと)をいっそう向上させるため、日本語と英語の特徴や言語の豊かさに気づき、発想力豊かな英文を書くための土台作りをそれぞれの単元で行っていく。
	3年	○無回答が少なく、特に記述する問題に強いなど、日頃から積極的にテストに取り組んでおり、この調査でもその傾向が顕著に見られた。 ●平均正答率は、県を上回ったが、全国の結果を下回った。特に、〔領域別〕では、書くこと、読むこと、聞くことが、〔観点別〕では、外国語理解の能力、表現の能力、言語や文化についての知識・理解に弱みが見られる。	□読み取る力(リーディング)は、リスニング力と同様に、主体的に聴きとること、読み取るという意欲を持つことで、単なるメッセージの受け取りから、一段レベルアップした活動になる。単元にあった手法を用いて、読み取る力を伸ばしていく。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○各教科の学習の大切さを理解し、真面目に学習活動に取り組んでいる。また、物事にあきらめずに挑戦しようしたり、学校の決まり、時間、提出期限を守るなどの規範意識も強い。 ●読書や新聞を読むなどの習慣が身につけているとは言えず、概して読解力に弱さが見られる傾向がある。	□主体的に考え、物事を判断する力が身に付くよう、図書や新聞、ICT機器を活用した調べ学習の充実を図っていききたい。それとともに読解力の育成にもつなげたい。また、学習成果を発表したり、自分の考えを説明したりするなど、言語活動の充実を図りたい。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○基本的な生活習慣、生活規律が身につけており、主体的な生活の仕方や他者との関わりが上手くできていることから、自己肯定感も比較的高いと言える。 ●将来の夢や目標をもっている生徒とそうでない生徒とでは学習に取り組む意識が違ってきている。 ●読書は好きだが、家庭では本を読んでいない。	□個人面談、保護者面談の充実によって、家庭との連携強化に努める。 □キャリア教育の充実を図ることで、進路に対する意識を高め、家庭学習の定着化を支援・推進していきたい。 □生活アンケート等で生徒のメディア利用時間を把握し、時間の使い方の見直しを促していきたい。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○ほとんどの生徒が、「自分が住んでいる地域が好き」と答えている。これまで本校が取り組んできたふるさと教育やキャリア教育、さらには地域を挙げて取り組んできた保小中連携の教育を通して、生徒たちに郷土への愛着や誇りが芽生えてきていると感じられる。 ●その反面、外部との関わりが希薄だと感じている生徒が多い。	□読書ヘルパーや放課後学習ボランティア、部活動支援のボランティア(外部指導員)、交通安全指導員など、学校外部の地域の方々に厚く支えられていることを折々に伝えて気付かせ、地域の方々への感謝の気持ちを大切にしつつ、地域社会に積極的に関わろうとする意欲を高めさせたい。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 2年生についてはほとんどの教科で出雲市、全国の平均正答率を上回っている。
- 2・3年生ともに、選択問題や短答式の問題については無回答が少なく、意欲的に学力調査に取り組んだことがわかる。
- 3年生については、すべての教科で出雲市、島根県、全国の平均正答率を下回っている。
- 2・3年生ともに、学級内での学力差が大きい。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○概ね目標値を上回る正答率である。 ●目標値を下回った4つの問のうち3つが漢字の読み書きであり、下学年で学んだ漢字が身につけていないことがわかる。 ●文章の構成についての問いは半数近くが無回答であり、理解できていない。	□新出漢字を日常的に使うように指導したり、漢字テストを実施し、積極的に覚えられるような工夫をする。 □物語文や説明文を読む際に、文章の内容だけでなく場面の転換や論じ方にも注意しながら学習を進める。また、文章を書く際、構成を立ててから書かせるなどの指導を行う。
	3年	○短歌を1首選び、感じたことや考えたことを答える問いについては100%が正答していることから、文章に表れているものの方や考え方について自分の考えをもつことができる生徒が多いことがわかる。 ●文章の展開に即して内容を整理する問いについては正答率が低く、文章の展開を考えながら読むことができていないことがわかる。	□文章の展開や構成を考えながら読むことができるように、文章の内容指導だけでなく、起承転結や序・本・結を確認しながら学習を進める。また、書く指導においても構成を立てさせ、論理的でわかりやすい文章が書けるよう指導する。
数学	2年	○全体的に正答率が高い。 ●関数領域については、学習内容の定着が不十分のため、正答率がやや低い。	□関数領域では、2つの数量関係を表、式、グラフに表すことを大切にし、復習をしながら、新しい内容を学習していく。 □発展した内容についての学習も積極的に行う。 □苦手な生徒もいるので、毎時間の授業で、基本的な計算問題をできるだけたくさん解かせ、計算力をつけさせる。
	3年	○基本的な計算問題をたくさん解いてきたことで、計算力がついてきた。 ○2年生で学習した図形や確率の正答率が高い。 ●関数と資料の活用は、学習内容の定着が不十分のため、正答率が低い。 ●記述式の問題が苦手な生徒が多い。	□基本的な計算問題をできるだけたくさん解かせるようにする。 □関数、資料の活用は、習熟度テストの度に復習の機会を設ける。 □記述式の問題を授業の中で積極的に取り組む。 □複数の教員により、きめ細やかに指導を行う。
社会	2年	○全体的に正解率が高い。 ●緯度経度についての理解が不十分な生徒が多い。 ●中世の日本と東アジアとの関わりの部分が弱く、他の時代と混同しやすい。 ●地理問題で複数の資料から読み取ることが苦手である。	□複数の資料から検討していく問題を多く用意する。 □各時代の特徴をまとめさせ、他の時代と混同しない学習を展開する。
理科	2年	○出雲市は科学館の学習もあり、生徒の興味関心が高く、実験技能も高く、学習内容の定着も良い。 ●めしべの位置など基本的なところができていなかった。	□復習で簡単な質問に答えさせることから始め、自分の考えをみんなの前で表現できる力を育てていく。 □実験や観察を大切にして、多くの実物に触れ合わせる。
英語	2年	○全体的に全国の平均値とほぼ同じで、市を上まわっている。 ○「聞くこと」や「書くこと」(英文作文や正しい語順で書くこと)において好結果がでている。 ●語形・語法を理解し正確に書くことにおいて誤答が多く、きちんと身につけていない。	□授業では、「読む」「聞く」「話す」「書く」をバランスよく取り入れるが、特に書くことにおいては、今まで以上に正確性を重視していくようにする。 □語形、語法に関して、効果的な課題を出すように工夫する。
	3年	○英会話を聞いて答える問題は、概ね良好な結果である。 ●「読む」「書く」「話す」の領域において全国平均を下回っている。特に記述式の問題においては誤答や無答の割合が高い。	□授業では、1、2年生の内容もおさえて復習しながら展開するよう工夫する。 □記述式の問題や課題を重視し、今まで以上に授業の中で効果的に取り入れるようにする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業の中で「解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」また、「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していた」生徒は県、全国の平均を上回った。(3年) ●授業でICTを週1回以上活用したと答えた生徒は県、全国を下回る4.5%だった。(3年) ○授業をきちんと聞いている生徒は9割以上おり、全国の数値を上回っている。(2年) ●授業中に自分の考えや意見を発表することが得意ではない生徒は68%で、出雲市の数値を上回っている。(2年)	□「わかる授業」実現の一助として、適切な場面でICT等の視覚教材を用いるなど、授業の工夫をする。 □自分の思いを話せる学級集団づくりを学校教育全般を通じて行うとともに、授業の中でさまざまな形態での発表機会をつくり、意欲的に自分の思いを話そうとする生徒を育成する。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「家で自分で計画を立てて勉強している」という生徒は県、全国を上回る22.7%であり、「どちらかといえばしている」という生徒も合わせると半数を超える54.5%いる。(3年) ●授業以外で普段勉強を全くしないという生徒が県、全国を上回り13.6%いる。(3年) ○授業以外で勉強しない生徒はほとんどおらず、半数以上が1時間以上上している。(2年) ●平日、メディアに触れる時間が1時間以上と答えた生徒は68%で市の数値を上回っている。(2年)	□家庭学習に取り組みにくい生徒の学習の手立てとして、授業内容に沿った課題を適宜与える。 □「学習の手引き」を配布し、家庭学習の方法に併せて家庭での適切な時間の過ごし方についても家庭で話し合ってもらおうきっかけづくりをする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」という生徒は77.3%おり、県、全国を上回っている。(3年) ●「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」という生徒は0%で県、全国を下回っている。(3年) ○「自分の住んでいる地域が好きである」という問いに対して「とても当てはまる」「まあ当てはまる」と答えた生徒は合わせて96%おり、全国を上回っている。(2年)	□職場訪問や職場体験などのキャリア教育等を通じて、自分の住む地域について知る機会をつくる。 □地域ボランティア等に積極的に参加するよう促す。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立湖陵中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

市学力・学習状況調査：○数学は、昨年度の結果をふま様々な取り組みを行い、数値として改善が見られつつある。●全教科とも総合的に問題があり、継続的な学習指導を家庭学習においても行う必要がある。●生活面においても目標を設定できない生徒が多く、家庭での生活習慣づくりを継続して取り組んでいく。  
 全国学力・学習状況調査：○国語と数学については、全国を上回っている。●表現する力については、各教科とも授業改善を工夫する必要があると思われる。●生活面においても家庭での生活習慣づくりを継続して取り組んでいく。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○「文法・語句に関する知識」の正答率は、目標値を上回っている。 ●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の正答率が目標値及び全国平均を下回っている。 ●「言語についての知識・理解・技能」の観点の正答率が目標値及び全国平均を下回っている。	□授業の中に学習ゲームの活動をなるべく取り入れ、学習に対する興味・関心を高める。 □漢字の宿題を出し、その小テストを毎時間しているが、そのテストの問題数を減らし、満点を取れるようにし、自信と達成感を持たせる。
	3年	○「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は全国平均を超えている。 ●「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均をやや下回っている。	□問われていることについて読み取れているか確認し、的確に答えられるように指導を工夫する。 □授業の中で、意見の分かれるテーマについての議論を積極的にに行う。
数学	2年	○「数と式」の領域は、市平均値や目標値に近い。 ●「図形」の領域が、市平均値や目標値と比べて低い。特に「空間図形」に課題がある。 ●「数学への関心・意欲・態度」の観点が市平均値や目標値と比べて低い。	□「図形」の領域を授業するときは、模型などの具体物を用いて視覚的な支援で理解をうながせるよう工夫する。 □グループ学習などを活用し、自分の力で問題を解く機会を増やし、解けたという達成感を味わえるようにする。
	3年	○観点「数学的な考え方」と「記述式」形式の正答率は全国平均を超えている。 ○「数学への関心等」が全国平均を超えている。 ●「数量や図形などについての知識・理解」の正答率が市平均を下回っている。 ●分布が二極化しており、学力に開きがある。	□自主学習ノートや課題テストへの取り組みを通して、基礎的な技能を身に着ける。 □数学的活動や日常生活の中から課題を取り入れ、探求していく学習を取り入れる。 □学び合いの学習を通して、互いに関わり合いながら学習する機会を作る。
社会	2年	○「世界各地の人々の生活と環境」「古墳時代まで」の正答率は目標値に達している。 ●「世界の諸地域」「中世の日本」の正答率は、目標値及び全国平均を大きく下回っている。 ●観点「資料活用の技能」に課題がある。	□グラフや図などの資料を読み取り、考える活動や課題を多く取り入れる。 □新聞記事やニュースを積極的に取りあげ、社会の出来事に対する関心を高める。
理科	2年	○4つの単元については、全国平均を超えている。 ●市と比べて、基礎と活用の表現力に差がある。 ●自然現象についての関心や意欲または知識、理解に問題がある。	□授業日以外にも復習ができるようプリント教材などを準備しておく。 □身近な自然現象に目が向くように、生活の中で関連することを多く事例として取り上げるように工夫する。
英語	2年	○リスニングの内容理解では、市平均値と近く目標値を超えている。 ●リスニングの対話文の応答や長文の読み取りに課題がある。 ●語彙の知識・理解も低いので、基礎基本の定着が弱い。	□調査の結果を受け、復習テストや補習を実施する。 □教科書以外の少し長い英文に触れさせる。長文を解く場を作る。 □復習テストや小テストを実施することで、自主学習ノートの取り組みに意味を持たせ意識を高める。
	3年	○話すことについては、全国平均を上回っている。 ●書くことについては、全国平均を下回っている。 ●英語の関心、意欲等については、全国平均を下回っている。	□話す活動については定期的にパフォーマンステストを行っており、その成果が表れているので、継続していく。 □書く活動については自分で考えて書く活動を増やすことで表現力向上に努めたい。 □ペア活動を多く取り入れることでコミュニケーションの力を向上させたい。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	2年：○各教科の特性も考慮し、定期的に活動形態は記録をしている。 ●授業での学習活動は行われているが、深い学びには不十分な面がある。 3年：○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することができる。 ●話し合いの中で、お互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていく力は弱いと思われる。	□授業中での「めあて、学級活動、振り返り」を充実させ、生徒活動の内容も記録し、研修資料として活用する。 □授業中の学級活動については、全教科内容を取り上げ研修を行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	2年：○10割近くの生徒が、主体的に家庭で、自主学習に取り組んでいる。 ●家庭での学習時間が課題と自主学習を含めて60分未満で少ない。 3年：○自主的な家庭学習をしないといけない意識は、市や国と比べても高い方である。 ●家庭での学習平均時間が少なく、今後の改善点である。	□各教科自主学習として取り組んでおり、さらに質と量の検討を行う。 □自主学習の成果が視覚的に分かるようにグラフなどにして、生徒に伝える。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	2、3年：○家庭内のあいさつや会話も多く外出時も連絡をきちんとしている生徒が多数いる。また決められた手伝いもしている生徒の割合も高い。 ○地域活動への参加も7割近くで多く、家庭や地域のつながりは高い。 2、3年：●地域活動に参加するだけでなく、活動を通して地域に貢献できる姿勢を持たせることが改善である。	□地域活動への積極的な参加が多く、郷土愛やボランティア精神の表れであるため、継続的な活動を支援していく。 □生活習慣づくりとして、生徒と家庭との話し合いの場を数多く設定する。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立大社中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年・教科によって差はあるが、概ね基礎的な学力は身につけている。</li> <li>○学習に対する関心は全体的に高く、学習することの大切さや必要性を認識している生徒が多い。</li> <li>○生活習慣の定着や家族との関係に関して、良好な結果が得られている。</li> <li>○住んでいる地域への愛着を持つ生徒が多く、ボランティアや伝統的な活動に積極的に参加する生徒も多い。</li> <li>●「資料の活用」「自分の考えを的確に書いて表現する」など、応用的に考え、答えを導き出すような問いに対応する力を伸ばす必要がある。</li> <li>●学習への意欲という点では個人差が大きく、それが上位層と下位層に分かれる状況を生んでいると思われる。</li> <li>●長い文章を読んだり、難易度の高い問題に根気強く取り組んだりすることが、できにくい生徒がいる。</li> </ul>
--

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」の正答率が高い。具体的には、「文法・語句に関する知識」についての問題や、「説明文の内容を読み取る」問題での正答率が、目標値を5ポイント以上上回っている。 ●漢字を「書く」力、文学作品の内容を「読み取る」力、「段落の構成をとらえる」力、読み取った内容や自分の「考えを明確に書く」力が弱い。	□漢字小テストや課題テストの見返しと反復練習を徹底する。 □文学作品を扱う際に、場面の展開や登場人物の心情をとらえるグループ活動を行い、互いの考えを交換させ、考えを深める。 □200字程度の条件作文を書く機会を増やす。
	3年	○ほとんどの領域で、正答率が高く、中でも「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化や国語の特質に関する事項」の領域での正答率が県や全国の平均を大きく上回っている。 ●文章を読むことに関しては比較的できているが、自分の考えを作文することが苦手である。	□書く機会を更に増やす。 □書いた文章をペアやグループで吟味しながら読むことで、文末表現や前後のつながりを考えながら文章を書く力につなげていく。
数学	2年	○数や文字式に関する基本的な計算、基本的な1次方程式を解くこと、空間図形に関する知識・理解が概ね良好である。 ●数学的な表現に関して、正確な知識・理解が不十分である。 ●関数に関する学習の定着、身に着けた技能を活用して問題を解決する力、数学的な表現を用いて説明する力が弱い。	□数学的な表現に関する理解を深めるため、授業の中で「学びなおし」の時間を取り入れたり、ペア学習・グループ学習などで数学的な表現を使って説明する場面を設定したりする。 □活用力、応用力向上の視点に立ち、問題演習を取り入れて、基本的な技能の定着を図る。
	3年	○『図形』に関しては、正答率が高い。同様に「数学的な技能」の観点も高くなっている。これは日頃から継続的に自学ノートに取り組みせたり、毎月課題テストを行い、その結果によって学習会を開催したりした成果だと思われる。 ●『関数』領域に関しては、全国平均と比べると低い。また、問題形式が「記述式」になると正答率がそれ程高くない。	□比例・反比例の意味と式・グラフがどう関連しているのかを復習プリントを使い習熟させていく。 □「説明する力」「書く力」をつけるために、日頃から数学的活用のある問題に取り組みさせていく。 □自分の考えを文章や図、言葉で表現したり、互いの考えを伝え合い分かり合うための場を設定したりする。
社会	2年	○基礎・活用の分類では活用に関する正答率が、また、観点別では感心・意欲・態度に関する正答率が概ね良好である。 ●「世界の地域区分の理解」、「各州の地形についての理解」、「西アジアや中央アジアの産業について資料をもとに把握する」、「時代区分の習得」の4つに関して、目標値に対して極端に正答率が低い。 ●歴史的分野の問題に対する「無回答」の割合が高い。	□授業の終末に重要事項を確認する時間を設けたり、小テストを実施したりすることで、基礎的な知識の定着を図る。 □学習に対する興味・関心がより高まるよう、地図やグラフ、写真といった資料を効果的に提示し、生徒が主体的に社会的現象の背景を考察する場面を作る。
理科	2年	○「内容別」では、『気体の性質、水溶液の性質、物質の状態変化、光の性質』について、「領域別」では、『粒子』について、「観点別」では、『自然事象への関心・意欲・態度、観察・実験の技能』についての正答率が高い。 ●コケ植物とシダ植物の分類に関する問題、岩石の特徴から岩石の種類を同定する問題、ばねを使った作図問題の正答率が低い。 ●計算問題にグラフの読み取りが加わるなど思考過程が多くなると困難さが増す。	□実物を観察したり映像資料を用いたりし、様々な観点から植物の分類や岩石の同定をする時間を設定する。 □さまざまなタイプの作図や計算の問題に繰り返し取り組む。 □観察・実験後の考察の時間を確保し、思考・判断・表現力を身につける。また、統括法を用いて理論的に説明できるようにする。
英語	2年	○「読むこと」「書くこと」の領域、英文の読み取り、対話文を読んで内容を理解する力は平均を上回っている。また、3文以上の英作文はほぼ平均値を得ている。 ●基礎的な文法事項や語彙などの定着が低く、特に「聞くこと」に関しての対策が必要である。 ●学力差が大きく、学習意欲との相関関係が認められる。	□ペアワークやグループ学習を積極的に取り入れたり、TTを有効に活用したりすることで、英語を苦手とする生徒を中心に学習集団全体の底上げを目指す。 □クラスルームイングリッシュの時間を増やしたり、ALTとの授業を工夫したりして、コミュニケーションへの意欲・関心・態度を高める。
	3年	○「聞くこと」「読むこと」の正解率は、全国・県の正解率を越えている。 ○「語彙の知識・理解」力が高いため、作文などの応用に強い。 ●全体を通して、自己表現問題の正解率が低い。書きたいという意欲はあるが、それを表現するだけの語彙力がないことが予想される。	□自己表現活動を帯活動で行うことにより、自分の思いを相手に伝えたり、まとめた力をつけていく。 □語彙を増やすため、辞書を活用した活動を定期的に行う。 □クラスルームイングリッシュに触れる機会を充実したものにすることで、ALTとの連携を図る授業を積極的に行う。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○個人差はあるが、自分から学習に取り組もうとする生徒が多くみられ、授業にも積極的に取り組む様子が感じられる。また、授業で学んだことを他の学習に活かしているという生徒の割合も多い。●話し合い活動を通して考えを深めることについて、「あまりしていない」と答えた生徒の割合が多い。生徒が考え、話し合っ、さらに考えを深める時間をもっと設定する必要がある。●1日当たりの勉強時間が県平均を下回っている一方で、ゲームやネットなどに長時間向かう生徒もおり、学習の習慣化に家庭と協力して取り組む必要がある。	□ペア学習や小グループでの話し合い活動を充実していく。 □課題テストを定期的実施し、学習内容の定着を図るとともに、必要に応じて学習会などを行い、補充的な学習の場を設ける。 □生徒が考え、話し合っ、さらに考えを深める場面と時間を意識して増やす。また、議論の方法や手順を学ぶ場を、学習場面に組み込む。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○規則的な家庭生活を送っている生徒の割合が高く、家庭での教育力はある程度安定している。メディアとの関わりも、全国の結果と比較して時間・内容ともに好ましい結果であり、小学校と連携し地域が一体となって取り組んでいることが成果を上げていると考えられる。●「自分にはよいところがありますか」という質問への結果から、自己肯定感が低い生徒がやや多いことがわかる。また、家庭学習や読書の時間が短いため、タイムマネジメントを行う力を身につける必要がある。	□自学ノートについて、自学の内容や範囲を具体的に示し、生徒がより意欲を持って取り組むことができるようにしていく。 □テスト計画表など、自分で計画を立て自主的に学習に取り組むことができるよう、家庭の協力を得る。 □PTA主催のメディア講演会の開催、小学校と連携して行うチャレンジ週間を今後も継続する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の行事やボランティア活動参加への意欲を持っている生徒が多く、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」という質問結果からも関心の高さが伺える。長年取り組んできた「すくらむ学習」など、ふるさと学習の成果である。 ○全国的にも有名な【大社ブランド】に対して、多くの生徒がプライドを持っている。 ●ふるさとへのプライドを持っている一方、将来も住み続けたいと考えている生徒の割合は少ない。	□1年生が行う「すくらむ学習」、3年生が行う「職場体験学習」、伝統行事の「社中生吉兆」など、地域と共に学び、共に成長していく生徒を育成する取組を継続する。 □地域のボランティア活動への参加を呼びかけたり、地域の課題や自分たちに何ができるかを考え話し合う授業を行ったりし、【大社ブランド】への意識をさらに高めていく。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立斐川東中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- ほとんどの教科・領域において、学習内容の定着が見られる。  
 ○家庭学習を1時間程度行っている生徒の割合が高い。  
 ●与えられた複数の情報の中から必要なものを選択し、それを活用して課題を解決したり表現したりする力に課題が見られる。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○ほとんどの領域において学習内容の定着が見られた。特に、話すこと聞くこと・読むこと・言語事項の定着の度合いが高い。 ●最終問題(作文)の無回答率が高い。作文を書くことに抵抗がある、または時間が足りず最終問題までいかなかったといえる。 ●読むことにおいて、文章の表現の特徴をとらえることに課題が見られた。	□定期的に、制限時間を設けて課題作文をする。指導者が添削を行い、模範解答を複数配付する。さらにその解答を参考に、作文を推敲する活動を行う。 □複数の教材を比較し、構成や表現の特徴を捉える学習を行う。
	3年	○どの領域においても学習内容の定着が見られた。 ○無回答率が低く、記述問題に対しても最後まで解答を書こうと努力した生徒が9割程度いた。 ●論の展開に適した語句や文の使い方を検討することに課題が見られた。 ●封筒の表書を、適切な字の大きさと楷書で正しく書くことに課題がある。	□自分が書いた文章を読み返し、読み手にとってより分かりやすいものになるように、推敲をする学習をする。この時、相互に読み合う活動も行う。 □書写において、実生活や社会生活を想定した学習や、場面や相手に応じて適切に文字を書く学習を行う。
数学	2年	○どの領域においても学習内容の定着が見られた。 ○数学の授業で学習したことを復習をしている生徒が9割程度いる。 ●活用問題の正答率が目標値より低く、他領域との融合問題や求める方法を説明する問題に課題が見られる。	□授業初めに取り組んでいる「5分間ドリル」裏面の「入試問題」にも全員が取り組めるよう時間を確保する。正答率が低い問題は授業で取り上げ、解き方などを確認する。 □活用問題を取り入れ、自分の考えや求め方を説明する場を増やす。
	3年	○数学の授業への取組意欲が高まり、どの領域においても学習内容の定着が見られた。 ●確率の問題では、同様に確からしいことに着目したり、起こり得る場合を表現したりすることに課題が見られた。 ●一次関数で、表やグラフを読み取って説明する問題に課題が見られた。	□確率の復習の時間を設け、落ちや重なりがないように樹形図や表に整理する方法を確認する。 □今年度の関数の授業で、表・式・グラフの関係性をおさえる。また、1、2年生で学習した関数の活用問題を週末課題に出題する。
社会	2年	○基礎・活用、ほとんどの領域や観点において定着が見られた。 ○社会科の学習に対して、肯定的にとらえている生徒が多い。 ●社会の出来事を新聞から得たり、習ったことを生活の中の事象と関連付けて考え・発表することが苦手な生徒が多い。	□新聞を授業の中で活用したり、身近な地域を題材した単元を組み込んだりする。 □自分の考えを発表できる場(機会)を増やす。
理科	2年	○基礎的・基本的な知識・技能は身に付いている。 ●知識・技能を活用する力に課題がある。 ●複数の資料を活用し目的に応じて情報を活用する力に課題がある。 ●自分の考えを相手に効果的に伝わるように表現する力に課題がある。	□多くの情報から問題解決に必要な情報を選ぶ学習を行う。 □既習の学習内容との関連性や系統性を考えたスパイラル的な学習過程を組み、既習の内容を確認しながら理解を深める。 □実生活の中で問題解決の場面を設定し、与えられた情報を表、図やグラフ等に整理し、説明できる表現力を育成する。
英語	2年	○リスニング(内容理解)、語形・語法・語彙の知識・理解、長文の読み取り、単語の並べかえによる英作文において、定着が見られた。 ●場面に応じて英作文を書く力に課題がある。	□授業で学んだ新出表現を使って、自分の考えや意見を2～3文のまとまりのある英文で書いたり、話したりする活動を行う。 □平日の課題や週末課題で、既習表現を使って英作文する練習をする。
	3年	○まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解する領域や、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く領域に定着が見られた。 ●グラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択したり、与えられた情報に基づいて人物を説明する英文を書いたりする力に課題が見られた。	□表やグラフを説明する英文を読んで答える問題に普段から取り組む。 □与えられた情報に基づいて英作文する活動を授業で行う。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業中に、自分の考えや意見を発表することは得意ですか」(2年生)「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」(3年生)に対して、肯定的に答えた生徒の割合が高い。 ●3年生で「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」と答えた生徒の割合は、県や国に比べて低い。	□授業で自分の考えをまとめて発表する学習を工夫して行い、互いに意見を聞き合う雰囲気を高める。 □関連する、既習事項や他の教科の学習内容を教師が把握し、授業の中で意識して生徒に想起させる。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○平日に1時間以上家庭学習を行っている生徒の割合は8割近くいる。また、2時間程度行っている生徒も全国平均程度いる。全く行っていない生徒はいない。 ○家で計画を立てて勉強を行っている生徒の割合も高い。	□自学ノートの取組を継続して行う。よい取組を紹介し、学級・学年全体の家庭学習への意欲を高める。 □自学ノートの取組が不十分な生徒に対しては個別指導を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合は高く、地域のボランティア活動への参加者も多い。 ○3年生で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に対して肯定的に答えた生徒が増えた。 ●2年生で、「新聞の記事を読んでいる」と答えた生徒が3割に満たない。	□社会のニュースへの関心を高めるために、朝礼で新聞等で読んだことをもとにしたスピーチを行う。 □現在行っている「ふるさと学習」を継続し、地域を知り地域のよさに気付く学習の場とする。また、学んだことを発信する機会を設ける。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川西中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>【全国学力調査】 ○国語については、教科の正答率が全国平均正答率を上回った。●数学、英語については、教科の正答率が全国平均正答率を下回った。特に、数学は、根拠をあげて筋道を立てて説明すること、英語は、書くことにそれぞれ課題が見られた。</p> <p>【出雲市学力調査】 ○国語、数学、理科、英語については、教科の正答率が全国平均正答率を上回った。また、教科の正答率のうち、活用に関して、国語・理科は全国平均正答率を上回った。●社会については、教科の正答率が全国平均正答率をやや下回った。また、教科の正答率のうち、活用に関して、社会・数学・英語は、全国平均正答率をやや下回った。</p>
---

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞きとることができる。○話の構成を工夫して、相手に分かりやすく伝えることができる。 ○指定された文字数で書くことや、自分の考えを明確にして書くことができる。 ●歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直すことが苦手である。 ●文学作品の読み取りで、場面の展開を捉えることが苦手である。 ●作文を、3段落構成で書くことが苦手である。	□歴史的仮名遣いの復習を行い、現代仮名遣いに直して正しく古文の音読ができるようにする。また、暗唱テストで定着を図る。 □文学作品の読み取りでは、場面の展開やその効果について考え、展開を意識して読むことができるようにする。 □各単元、定期試験等で条件作文を書く活動を取り入れる。
	3年	○話し合いの話題や方向を捉えることができる。 ○文章に表れているもの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。 ●文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることが苦手である。 ●「根拠を明確にして」自分の考えをもつことが苦手である。 ●封筒の書き方を理解して書くことが苦手である。	□文章中の内容や表現を元に、自分の考えを書いたり伝えたりする活動を繰り返し行う。 □手紙や封筒の書き方について実践的に学ぶ機会を取り入れる。
数学	2年	○正の数・負の数についてよく理解できており、基本的な計算をすることができる。○代表値や範囲などの用語についてよく理解できており、示された値が資料の中でどのような位置にあるかを判断することができる。 ●文字を使った式の基本的な計算をすることが苦手である。 ●文字を使った式で関係や数量を表したり説明をしたりすることが苦手である。	□連立方程式や、一次関数の内容の学習をしながら、改めて文字式についての復習をする。□文字式を使う授業の際には、文字式の計算の中で、間違える傾向の強いパターンを取り上げ、随時復習する。□授業の中に自分の考えを伝える活動を取り入れ、理解を深めることができるようにする。
	3年	○図形の平行移動の意味を理解していたり、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明したりすることができる。 ○簡単な場合についての確率を求めることができる。 ●資料から傾向を的確にとらえ、判断の理由を説明することが苦手である。 ●文字を用いて、ことが成り立つ理由を説明することが苦手である。	□資料の見方について、丁寧な説明やグループで資料の傾向を話し合うなどして、理解を深めることができるようにする。□ある数を文字を用いて表したり、文字式が表すことがらを読み取ったりする練習を丁寧に行う。また、文字を使ってあることがらが説明できるような問題に取り組む。
社会	2年	○地理的分野は全体的によく理解できている。特に雨温図を用いた気候の判断や、地形の特色を答える問題では、高い正答率を示した。 ●地理的分野の複数の資料を使う問題では、活用技能に不十分な面が残った。 ●歴史的分野では、中世の内容については理解が不十分な点が多く見られた。	□基礎的内容を確認できるよう、単元ごとに復習の機会を設け、小テストを実施する。特に歴史的分野では江戸時代以降の学習の中で、中世の振り返りを行い、理解を深める。 □資料の読み取りに重点を置いた授業内容を増やすとともに、考えを文章でまとめる活動を増やし、記述問題の指導に力を入れる。
理科	2年	○光の性質以外、全ての項目について、全体的によく理解できている。 ○火山の形からマグマの粘り気や噴火の様子を考えることができる。 ○地層や化石からその当時の自然環境や年代を考えることができる。 ●光の性質「凸レンズを通過する光の進み方」について、レンズの位置とできる像の大きさや向きが十分理解できていない。	□基礎学力の定着を図るために、振り返りの機会を設けたり、小テストを行ったりすることで理解を深める。□実験の基礎操作の丁寧な確認や、結果からグラフや表にまとめて関係を考える活動を行う。□光の性質については、身近な例と教科書の内容を結びつけ、体験的な活動を通して理解を深めることができるようにする。
英語	2年	○対話文の応答(リスニング)の仕方を理解している。 ○語彙・語形・語法を理解することができる。 ○3文以上の英作文を書くことができる。 ●<疑問詞what+名詞>を使った疑問文の語順の理解が不十分であり、苦手である。 ●読みとった内容をふまえて、英文を完成させることが苦手である。	□リスニング活動を毎時間行うとともに、様々な話題の英文を聞き、自分の考えをもつ時間をつくる。 □基本的な語彙、文章についてのドリル学習を行い、定期的に、書き取りテストを行うことで、理解を深めることができるようにする。 □パフォーマンステスト(音読、暗唱、英作文)を実施する。
	3年	○まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。 ○教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる。 ●与えられた情報に基づいて、3人称単数現在形を使った文が正確に書けない。 ●英語で聞いた内容や、書かれた内容に対して、自分の考えを英語で書くことが苦手である。(書くことの記述式問題で無解答が多い。)	□人称と動詞の活用について復習し、三人称単数現在形の理解と定着を図る。 □単語の発音練習や教科書本文の音読練習を十分に行う。基本文や基本表現を参考にしながら、自分の考えを書く活動を授業に多く取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	【出雲市学力調査】○学級の友達と話し合う活動をよく行っていたと回答した生徒の割合が高い。 ●授業中に、自分の考えや意見を発表することを得意とする生徒の割合が低い。 【全国学力調査】○話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができているという生徒の割合が高い。 ●授業でICTを使用した割合が低い。	□ペア学習やグループ学習を通し、学習内容の定着を図る。 □各授業の中で、自分の考えをもったり、説明したりする場面を多く設定する。 □教材研究を進める中で、ICTを有効に活用できる場面を見つけ、実践していく。指導者自身のスキルアップを図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	【出雲市学力調査】○自分で勉強の計画を立てて、勉強している生徒の割合が高い。 ●新聞の記事を読んでいる生徒の割合、本を読んでいる生徒の割合は、全国平均値を下回った。 【全国学力調査】○読書が好きだという生徒の割合が高い。 ●学校の授業以外の学習時間が少ない。1時間未満と答えた生徒の割合は全国平均値と大差ないが、2時間以上と答えた生徒の割合は全国平均値の半分程度である。	□学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を図り、授業で身につけた知識・技能を活用した課題にも取り組んでいく。 □定期試験前のテスト計画表の活用、ノーマディア週間に記入する個人カードの活用を通し、家庭学習の習慣化を図る。 □朝読書の時間を活用する。また、学校図書館と連携し、学年別に文庫本を用意して読書環境を整える。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	【出雲市学力調査】○地域の行事に参加している生徒の割合は、全国平均値よりやや上回った。 ●家での手伝いをしている生徒の割合は、全国平均値を大きく下回った。 【全国学力調査】○日本や自分が住んでいる地域について、外国の人を知ってもらいたいという生徒の割合がやや高い。 ●地域の行事に参加している生徒の割合や、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるという生徒の割合が低い。	□道徳の授業の中で、働くことの意義や地域と自分との関わりについて考える場を設定する。 □総合的な学習の時間等を通じて、地域について学び、地域の中でよりよく生きていくことを考える機会を設ける。 □地域行事や、地域のボランティア活動へ積極的に参加するよう、啓発活動を行う。